

氏名	岩 崎 裕 光
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3069号
学位授与の日付	平成8年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	急速破壊型股関節症の病態に関する研究
論文審査委員	教授 平木 祥夫 教授 清水 信義 教授 田中 紀章

学位論文内容の要旨

疼痛発現から手術施行までの罹病期間が3年以内で急速に股関節の破壊が進行した症例（急速破壊型股関節症）25例25股について、臨床的に追跡するとともに、X線学的、病理組織学的に検討した。発症年齢は、平均68.3歳、多くが高齢の女性で男女比2:23であった。日本整形外科学会変股症判定基準では、疼痛が平均13点/40点と強い割に、関節可動域（屈曲）は平均9.4点/12点と良好であった。手術的治療までの罹病期間は、血液検査で血沈亢進群（30mm/時間以上）10.3ヶ月であり、正常群（30mm/時間以下）20.8ヶ月に対し、炎症反応陽性群が罹病期間が短い傾向にあった。また、合併症として高血圧症が44%にみられた。X線学的には、全例骨粗鬆症を認め、Singh分類で、骨粗鬆の進行している方が罹病期間が短い傾向であった。白蓋被覆率としてのCenter-Edge角、Acetabular-Head Indexは65%が平均値以下で軽度の関節形成不全を認めた。病理組織学的には、多くは骨頭病変の表層部は象牙化骨が露出していたが、骨増殖性変化は乏しかった。滑膜所見では、表層で絨毛の増生と滑膜細胞の増殖を認め、下層では、骨・軟骨の遊離片の埋入を認め、いわゆる非特異的炎症像であった。

論文審査結果の要旨

本研究は整形外科領域における急速破壊型股関節症25例25股について臨床的、X線学的ならびに病理組織学的に研究したものである。従来十分解明されていなかった本症の病態として骨粗鬆症の進行した高齢者の股関節に何らかの原因による炎症が起り、そのために骨頭と白蓋は脆弱化し、軽度の股関節形成不全や骨盤の後傾などの力学的要素と相俟って、急速に関節が破壊していくと考えられる結果を得た。これは臨床的に重要な知見を得た価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。